

《第 39 号》「持続可能な社会を目指して」

羽賀育子(容器包装の 3R を進める全国ネットワーク運営委員、EPR とデポジット制度の実現を目指す全国ネットワーク)

近年、住民の環境への関心が高まりリサイクルされるごみ(資源)の収集、選別保管を担う自治体の費用負担が増え続けています。リサイクルは進みましたがより大切なリデュース(減量)、リユース(再利用)が進まずごみは一向に減りません。

現在、ごみも資源も税金で処理処分されており容器包装も同じく税金で処理されています。つまり容器を使う人も使わない人も等しく負担させられているということです。私たちは持続可能な社会を目指して、次の容器包装リサイクル法改正に向けて 2R の促進を目指す署名活動をはじめました。

私たちは、まず減らす(リデュース)、次に繰り返し使う(リユース)、が当たり前になる社会を目指します。

★はじめに、発生抑制を強化します。

容器包装リサイクル法の役割分担を見直し、分別収集・選別保管の費用を製品価格に内部化し受益者負担とします。

★次に再使用容器の普及を強化します。

リユース容器利用事業者への経済的な優遇処置を導入し、リユース容器を消費者が喜んで買うような価格設定ができるようにする。

★そして、再生利用を促進します。

リサイクル困難物を利用した事業者から課徴金を徴収してリサイクル適正を促します。

スーパーマーケットやコンビニエンスストアではレジ袋の無料配布なし、大学では、マイボトル・マイカップが使える。会議にはペットボトルではなく、湯飲みや水差しを使用。学校では給の食牛乳はリユースビン。イベント会場やスタンドでは、デポジットによるリユースカップ・リユース食器で販売され、ごみが出ない。

そんな社会を目指します。2R の促進にご一緒に活動をお願いします。

以上